

第2次 鹿屋市自転車活用推進計画



令和6年4月
鹿屋市

目次

第1章 計画の趣旨

- 1 計画の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 基本施策、現状、基本方向・取組

- 1 基本施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 現状、基本方向・取組
 - (1) 脱炭素・健康・・・・・・・・・・・・ 4～5
 - (2) 安全・安心・・・・・・・・・・・・ 6～7
 - (3) 環境・・・・・・・・・・・・ 8～9
 - (4) 観光・・・・・・・・・・・・ 10～11

第3章 計画の推進体制

- 1 計画の推進体制・・・・・・・・・・・・ 12
- 2 フォローアップ及び見直し・・・・・・・・ 12
- 3 計画におけるSDGsの取組・・・・・・・・ 13

第4章 資料

- 1 市民アンケート結果（利用状況等）・・・・ 14～20
- 2 自転車関係団体等ヒアリング結果・・・・ 21～24
- 3 レンタサイクル実証アンケート結果・・・・ 25～30
- 4 自転車施策に係る実績・・・・・・・・・・・・ 31～32
- 5 モデルルート図・・・・・・・・・・・・ 33



1 計画の目的

平成30年に自転車活用推進法第9条に基づく「自転車活用推進計画」が閣議決定され、令和2年には「鹿児島県自転車活用推進計画」が策定される等、自転車活用の機運が高まっています。

本市においては、全国唯一の国立の体育系大学である鹿屋体育大学が所在するとともに、同大学自転車競技部が毎年各種大会で上位入賞を果たしていることや、適度な起伏があり比較的交通量が少ない道路が多く、2001年から始まったツール・ド・おおすみサイクリング大会をはじめとする各種サイクリングイベントが実施されていること、平成27年10月に鹿屋初となるプロスポーツチームである「CIEL BLEU KANOYA（シエルブルー鹿屋）」が発足し、国内はもとより世界で活躍していること、また、平成29年3月に霧島ヶ丘公園サイクリングロードが整備され、平成30年には霧島ヶ丘公園マウンテンバイクパークが整備される等、「自転車を見る」、「自転車に乗る」、「自転車に触れる」環境が整っています。

このような中、本市において健康づくりや自転車事故のない安全・安心な社会の実現、観光振興や地域活性化等、積極的に自転車を活用したまちづくりを推進することを目的として、「鹿屋市自転車活用推進計画」（以下、「第1次計画」という。）を令和3年に策定しました。

これまで、本市においては、第1次計画に基づいて、「モデルルートの設定・マップの作成」、「サイクリストサポート施設の設置」等に取り組んできました。一方で、サイクリングコースやサイクリストサポート施設の認知度・利用率が低いこと等が課題であるため、着実な自転車利用人口の増加を図り、「自転車によるまちづくり」を目標に、第1次計画の基本的な考え方を継承しつつ、より実効性の高い取り組みを推進するため「第2次鹿屋市自転車活用推進計画（以下、「本計画」）」を策定するものです。

2 計画の期間

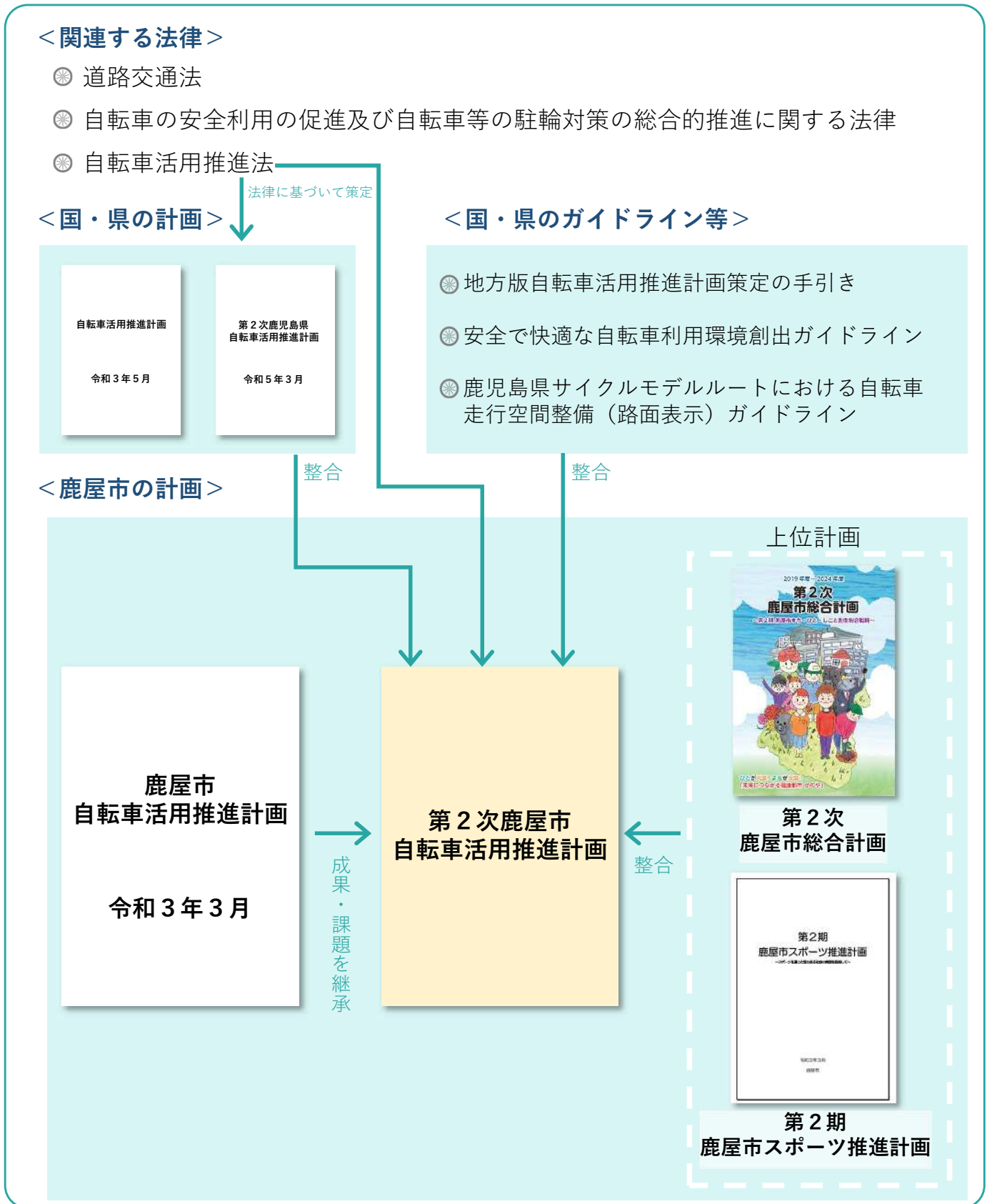
本計画は、長期的な展望を視野に入れつつ、令和6年度から令和10年度までの5年間で計画期間とします。



3 計画の位置づけ

本計画は、自転車活用推進法第11条に基づき策定するものです。

また、本計画は第2次鹿屋市総合計画（第2期鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略）や国・県の自転車活用推進計画、各種関連計画との整合を図った本市における自転車施策に関する最上位計画として位置づけ、鹿屋市全域を対象とします。





1 基本施策



第1次計画 (R3~R5)

<目的>

健康・安全・環境・観光の分野において、健康づくりや自転車事故のない安全・安心な社会の実現、観光振興や地域活性化など、積極的に自転車を活用したまちづくりを推進する。

これまでの実績、アンケート結果等を踏まえ、第2次計画は第1次計画の目的を継承しつつ、より実現性の高い計画として策定しました。

第2次計画 (R6~R10)

脱炭素・健康 Decarbonization & Health

目標1

自転車を活用した健康づくりの推進

指標1

市民の自転車利用度 18.6%→20.0%

基本施策

- ◎自転車に触れ合う機会の提供
- ◎通勤等の自転車利用の推奨
- ◎自転車の社用車等への利用推進



通勤等の自転車利用



レンタサイクル

目標3

自転車を快適に利用できる環境の整備

指標3

レンタサイクル実施団体数 4団体→10団体

基本施策

- ◎快適な利用環境整備の推進
- ◎レンタサイクルの導入検討
- ◎自転車走行環境整備の推進

環境

Environment

安全・安心

Safety & Relief

目標2

自転車事故のない安全・安心な社会の実現

指標2

自転車交通事故件数 9件→0件

基本施策

- ◎ヘルメット着用促進
- ◎自転車安全運転講習会の実施
- ◎自転車損害賠償保険への加入促進



自転車安全運転講習会



サイクリングイベント

目標4

サイクルツーリズムの推進による観光振興と地域活性化

指標4

サイクリングイベントの参加者数 約2,000人→約4,000人

基本施策

- ◎サイクルツーリズムの推進
- ◎シエルブルー鹿屋と連携した大会等の誘致
- ◎サイクリングイベントの拡充

観光

Tourizm



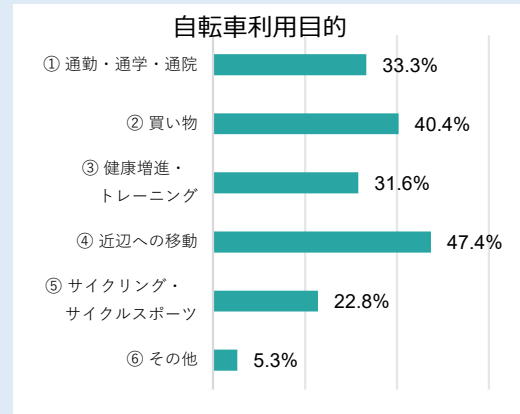
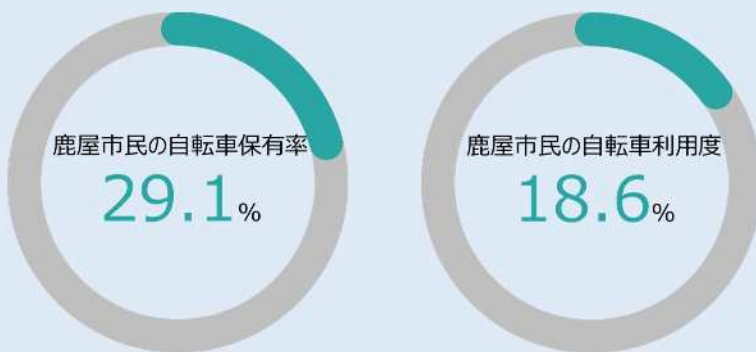


(1) 脱炭素・健康

① 現状

自転車の利用状況

- 令和5年度に、自転車の活用に関する市民アンケートを実施した結果、「自転車の保有率」は、約3割、「自転車利用度」は、約2割でした。
- 自転車の利用目的については、「近辺への移動」や「買い物」での利用が多い結果でした。



サイクリングコース等の整備

- 本市では、平成29年3月に手軽にサイクリングが楽しめるよう霧島ヶ丘公園内に1周2kmのサイクリングロードを整備し、平成30年3月には子どもから大人まで楽しめる霧島ヶ丘公園マウンテンバイクパークを整備しました。



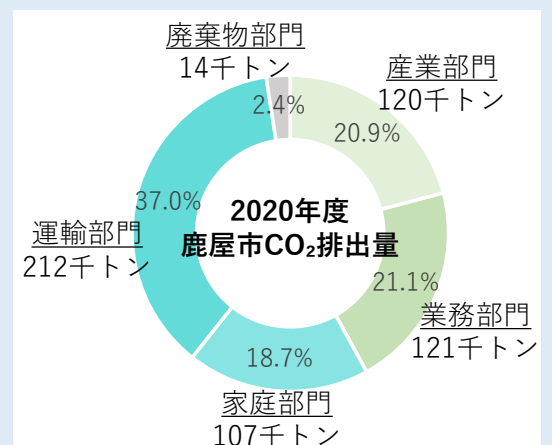
霧島ヶ丘公園サイクリングロード



霧島ヶ丘公園マウンテンバイクパーク

鹿屋市のCO₂排出量

- 本市の令和2（2020）年度のCO₂排出量は、573千トンです。
- 運輸部門が、最も多く212千トンのCO₂が排出されており、自動車から自転車へ転換する等CO₂排出の削減に係る対策に取り組む必要があります。





(1) 脱炭素・健康

② 基本方向・取組

本市の現状（脱炭素・健康）を踏まえ、下記のとおり取り組みます。

目標 1

自転車を活用した健康づくりの推進

課題

サイクリングスポーツや自転車通勤等による健康づくりに関する取り組みが不十分であることから、本市の自転車利用度が低い。

① 自転車に触れ合う機会の提供

障がい者や高齢者を含めた全市民を対象に、各種サイクリングイベント等において、自転車を体験できるような取組を進め、自転車に触れ合う機会の提供に努めます。

また、自転車利用による健康増進や、環境意識の啓発を目的とした市民参加型のサイクリングイベント等を開催し、自転車の魅力を体感してもらうことにより、幅広い層への自転車利用の浸透や自転車交通への理解を深めます。

<具体的な取り組み>

- ⊗サイクリングイベントの定期的な開催（乗る“きっかけ”づくり）
- ⊗マウンテンバイクパークの利用促進に係る情報発信



② 通勤等の自転車利用の推奨

健康増進のため、通勤等における自転車利用を推進できるよう、マイカーひとやすみdayの取組を企業等へ推奨することで、市民が近隣場所への移動手段を自動車から自転車へ変える取組を推進します。

<具体的な取り組み>

- ⊗自転車通勤等の情報発信（CO₂排出量削減のPR等）
- ⊗マイカーひとやすみdayの導入促進（モニター事業の実施等）

③ 自転車の社用車等への利用推進

近辺の移動手段を自動車から自転車に変えることで、従業員等の運動機会を創出し、健康増進に繋がるだけでなく、環境に配慮した企業等のイメージアップにも繋がることから、自転車の社用車等利用を推進します。

<具体的な取り組み>

- ⊗自転車の社用車利用に係る情報発信
- ⊗モデル企業等による利用の推進

基本方向・取組

指標

評価指標	実績値 (R5)	目標値 (R10)
鹿屋市民の自転車利用度	18.6%	20%

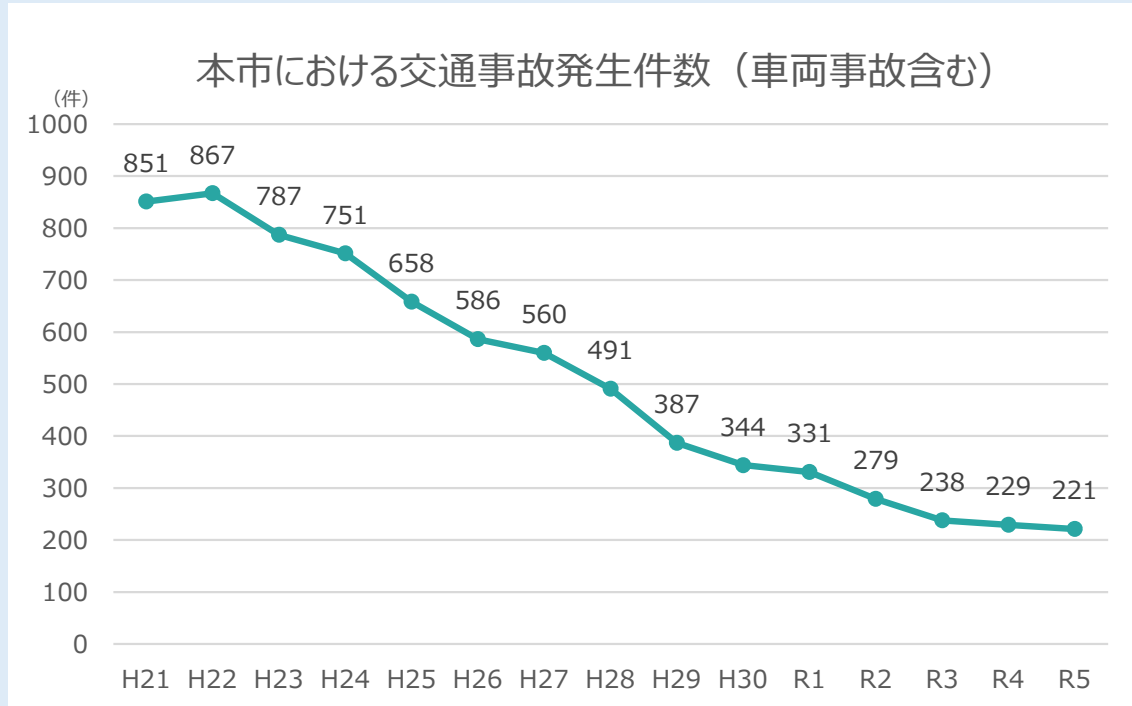


(2) 安全・安心

① 現状

自転車事故の状況

- 本市における交通事故の状況は、平成30年から令和4年までの5年間で115件減少（344件→229件）しており、全交通事故に占める自転車関連事故の割合は4%から7%で推移しています。



区分	R3	R4	R5
自転車事故件数	20件	11件	9件

CIEL BLEU KANOYA（シエルブルー鹿屋）との連携による取組

- 本市に活動拠点を置く地域密着型プロサイクリングチーム「CIEL BLUE KANOYA(シエルブルー鹿屋)」は、地元小学校での自転車安全運転講習会や幼稚園でのストライダー体験会などを定期的に行き、サイクリングの普及や交通安全に関する活動に尽力しています。

自転車安全運転講習会



実施回数
16回（R4）

市内小学校(12校)で実施
参加人数 1,418人

ストライダー体験会



実施回数
4回（R4）

市内幼稚園やイベント
で実施
参加人数 346人



(2) 安全・安心

② 基本方向・取組

本市の現状（安全・安心）を踏まえ、下記のとおり取り組みます。

目標2

自転車事故のない安全・安心な社会の実現

課題

本市における交通事故の現状は、平成21年から減少傾向で、自転車関連の事故は4%～7%で推移しており、自転車事故が数十件程度発生している。

① ヘルメット着用促進

令和5年に道路交通法が改正され、全ての自転車利用者のヘルメットの着用が努力義務となりました。

本市においても自転車安全運転講習会等を通してヘルメット着用の周知啓発に取り組みます。

<具体的な取り組み>

- ⊗ 自転車交通安全講習会等におけるヘルメット着用の周知啓発



② 自転車安全運転講習会の実施

自転車利用のルールやマナーの徹底、自転車の定期点検整備を周知するため、鹿屋警察署や鹿屋市交通安全協会、自動車学校、CIEL BLEU KANOYA（シエルブルー鹿屋）等と連携し、小中学校等において自転車交通安全講習会を定期的を開催します。

<具体的な取り組み>

- ⊗ 自転車交通安全講習会の定期的な開催
- ⊗ 定期点検整備の周知啓発

③ 自転車損害賠償保険への加入促進

「鹿児島県民のための自転車の安全で適正な利用に関する条例」に基づき、平成29年から自転車損害賠償保険への加入が義務づけられていることから、加入促進に取り組みます。

<具体的な取り組み>

- ⊗ 自転車損害賠償保険加入への周知啓発

基本方向・取組

指標

評価指標	実績値 (R5)	目標値 (R10)
自転車の交通事故件数 (鹿屋警察署管内)	9件	0件



(3) 環境

① 現状

鹿屋市サイクリストサポート施設の登録

- 観光消費の増加及び地域の活性化を図ることを目的に、サイクリストへの情報提供や物品等の貸出を行う「鹿屋市サイクリストサポート施設」の登録制度を整備しました。サイクリストサポート施設は、市内の事業所等と連携し、トイレの使用や駐輪スペースの確保、空気入れ及び自転車用工具の貸出を行い、サイクリストの快適な走行環境を整備しました。



サイクリストサポート施設



サイクリストサポート施設
のぼり旗

サイクリストサポート施設

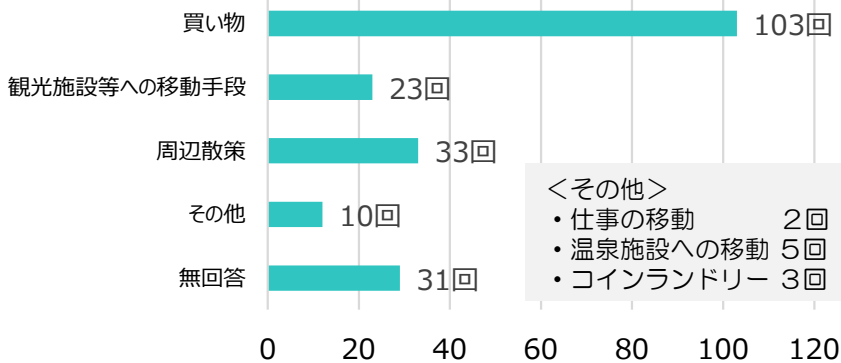
登録数

29施設 (R5時点)

レンタサイクルの実証

- 令和5年度に、レンタサイクルの導入促進に向けたニーズの把握や今後の施策を検討するため、市内の宿泊施設に自転車を配置し実証した結果、利用者のほとんどが宿泊者であり、宿泊地付近の商業施設への移動目的が最も多い(103回)状況でした。
- 本市内での宿泊サービスの向上の一環として、レンタサイクル事業の導入は、効果的な取り組みであると考えられます。

レンタサイクル実証における目的別利用回数



レンタサイクル実施団体

団体数

4団体 (R5時点)

自転車走行環境整備

- 令和3年度と4年度には、鹿児島県や近隣市町と連携し、本市の観光スポット等を周遊できるサイクリングコースを2ルート設定し、ルート上には矢羽根型路面表示や自転車のピクトグラム、破線矢印を整備し、併せて、自転車のまちかのやをPRするための大型看板を設置しました。



矢羽根型路面表示・ピクトグラム



自転車のまちかのやPR看板



(3) 環境

② 基本方向・取組

本市の現状（環境）を踏まえ、下記のとおり取り組みます。

目標3

自転車を利用できる環境の整備

課題

サイクリストサポート施設や自転車走行環境の整備を行ってきたが、サイクリングターミナルの整備やレンタサイクルの拡充が必要である。

① 快適な利用環境整備の推進

市内の事業所等と連携し、工具や空気入れを配備したサイクリストサポート施設の充実を図るため、利用向上に向けた取り組みを推進します。

また、いつでもサイクリングを楽しめることを目的に、レンタサイクルや自転車の修理等が行える拠点施設（サイクリングターミナル）の整備に向けて検討します。

<具体的な取り組み>

- ⊗ サイクリストサポート施設の情報発信
- ⊗ イベント等によるサイクリストサポート施設の利用促進
- ⊗ サイクリングターミナルの整備に向けた検討

※サイクリングターミナル：自転車の貸出しや自転車に関する情報提供を行う施設



② レンタサイクルの導入検討

誰でも気軽に自転車を利用でき、サイクルツーリズムと連動した、レンタサイクルの導入について検討します。

<具体的な取り組み>

- ⊗ レンタサイクル導入可能な団体や協議会の調査

③ 自転車走行環境整備の推進

自転車が通行しやすい環境を整備するため「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」に基づき、自転車走行環境整備を推進します。

<具体的な取り組み>

- ⊗ 自転車通行ラインの維持管理・整備
- ⊗ 霧島ヶ丘公園管理用道路等を活用した自転車専用のコース等の整備検討

基本方向・取組

指標

評価指標	実績値 (R5)	目標値 (R10)
レンタサイクル実施団体数	4 団体	10 団体



(4) 観光 ① 現状

サイクリングイベントの開催

- 本市では、毎年県内外から多数のサイクリストが参加するツール・ド・おおすみサイクリング大会や、霧島ヶ丘公園マウンテンバイクパークを活用したかのやマウンテンバイカーズFES等、様々なサイクリングイベントが開催されています。
- 令和4年度には、国内最高峰の自転車ロードレース競技選手・チームが参加する「JBCFサイクルロードシリーズ」の開幕戦を鹿屋市、志布志市、肝付町で開催しました。



ツール・ド・おおすみサイクリング大会



かのやマウンテンバイカーズFES



華金サイクリング



JBCFサイクルロードシリーズ開幕戦

モニターツアーの実施

- 令和4年度に、外国籍の方を対象としたモニターツアーを実施した結果、参加者の8割の方が、1年以内に再び参加したいと回答しました。



モニターツアーの参加風景



(4) 観光

② 基本方向・取組

本市の現状（観光）を踏まえ、下記のとおり取り組みます。

目標4

サイクルツーリズムの推進による観光振興と地域活性化

課題

整備されたサイクリングコースの活用が不十分であることからコースを活用したサイクルツーリズムの推進が必要である。

① サイクルツーリズムの推進

市内の観光施設等との連携や自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会、鹿児島県サイクルツーリズム推進協議会等の取り組みについて積極的に協力し、サイクルツーリズムの推進に取り組みます。

また、観光施設や自然・歴史学習が楽しめる場所、自転車の整備・点検ができる場所や休憩施設等を考慮して整備したサイクリングコースの利用促進に取り組みます。

<具体的な取り組み>

- ツーリズム（ツアー）の造成に向けた検討
- 全国シクロサミットの鹿屋市開催の誘致検討
- 近隣市町と連携した広域的なサイクルツーリズムの検討
- サイクリングコースの情報発信
- サイクリングコースを活用したイベントやツアーの開催



② シェルブルー鹿屋と連携した大会等の誘致

県内外からのサイクリストを誘客することを目的に、プロサイクリングチーム「CIEL BLEU KANOYA（シェルブルー鹿屋）」と連携し、サイクリングイベントの開催や合宿の誘致に取り組みます。

<具体的な取り組み>

- JBCFが開催するロードレースの継続開催
- JBCF加盟チームの合宿誘致
- シェルブルー鹿屋、鹿屋体育大学等と連携したサイクルイベントの開催

③ サイクリングイベントの拡充

自転車の迫力や楽しさを伝え、スポーツの振興及び地域経済の活性化等を図ることを目的に、サイクリングイベントの内容充実に向けた取り組みを推進します。

<具体的な取り組み>

- ツール・ド・おおすみサイクリング大会の内容充実

基本方向・取組

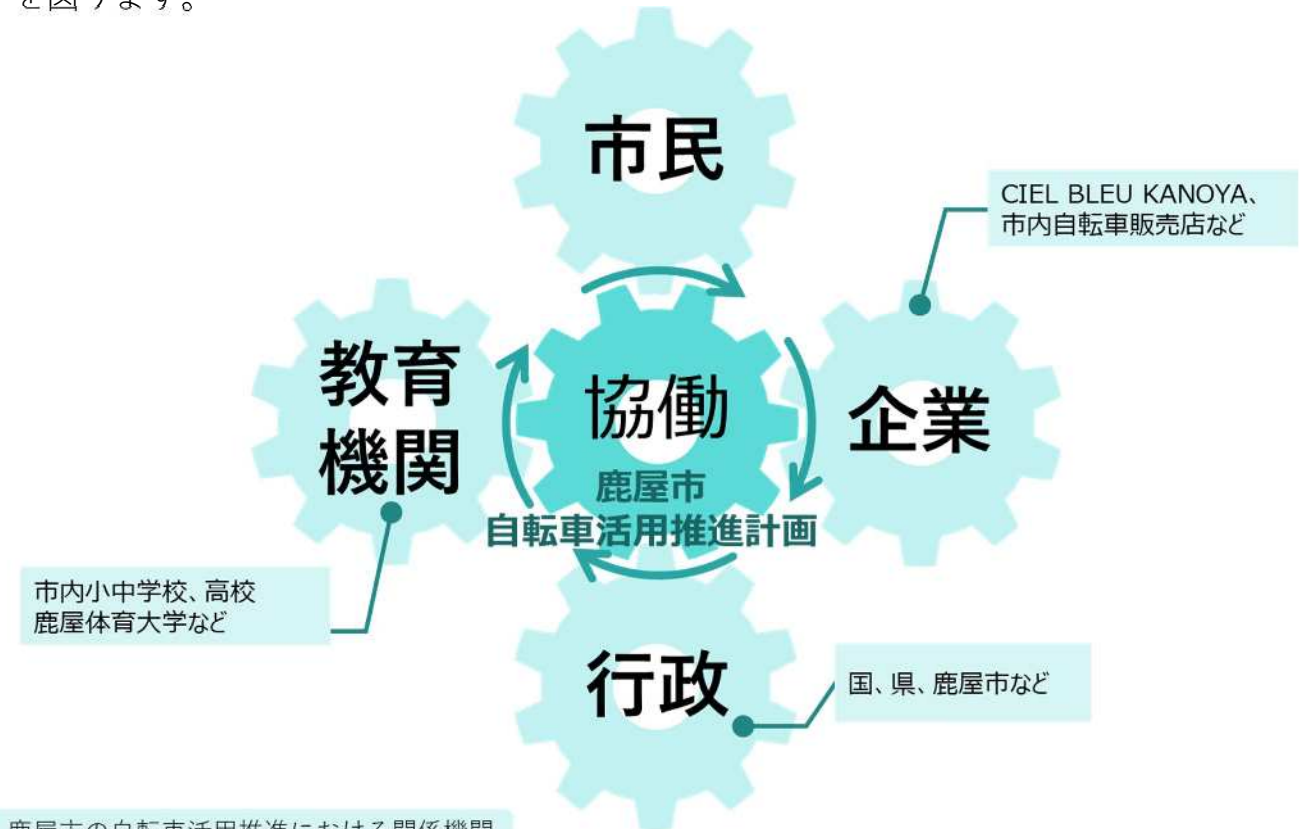
指標

評価指標	実績値（R5）	目標値（R10）
サイクルイベントの参加者数（年間）	約2,000人	約4,000人



1 計画の推進体制

- 本計画の推進に当たっては、市の関係課が連携した庁内体制を充実させるとともに、大隅地域の市町や関係機関と連携し、自転車のまちづくりを推進します。
- 市民、企業、行政等が協働で推進する体制を検討するとともに、本計画の着実な推進に向けて、イベントやホームページ等を通じて、広く市民に自転車活用に関するPRを図ります。



鹿屋市の自転車活用推進における関係機関

国、鹿児島県、CIEL BLEU KANOYA（シエルブルー鹿屋）、鹿屋体育大学、鹿屋市サイクリング協会、おおすみ観光未来会議、鹿屋市観光協会、鹿屋市内の自転車販売店 など

2 フォローアップ及び見直し

- 本計画の実現に向けては、進捗状況について設定指標を用いたフォローアップを行います。
- 社会情勢の変化等を踏まえて、必要に応じて本計画の見直しを行います。

計画目標	目標内容	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和10年度)
目標1（脱炭素・健康）	鹿屋市民の自転車利用度	18.6%	20%
目標2（安全・安心）	自転車の事故件数	9件	0件
目標3（環境）	レンタサイクル実施団体数	4団体	10団体
目標4（観光）	サイクリングイベントの参加者数（年間）	約2,000人	約4,000人



3 計画におけるSDGsの取組

- 本計画に掲げる基本目標・基本方向は、SDGsの考え方を取り入れて策定しており、本計画を推進することで、SDGsの17の目標のうち「③すべての人に健康と福祉を」、「⑪住み続けられるまちづくりを」、「⑬気候変動に具体的な対策を」の目標達成に向けた取り組みを推進します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





1 市民アンケート結果（利用状況等）

○調査期間：令和5年5月30日（火）～6月21日（水）

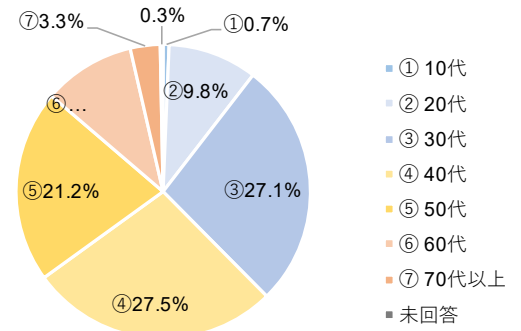
○回収結果：133人（一般アンケート）

173人（市政モニター）

1 回答者の属性について【対象：回答者全員】

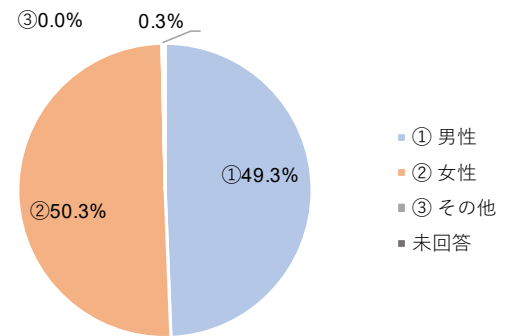
問1 あなたの年齢を選択してください。

回答	件数	割合
① 10代	2	0.7%
② 20代	30	9.8%
③ 30代	83	27.1%
④ 40代	84	27.5%
⑤ 50代	65	21.2%
⑥ 60代	31	10.1%
⑦ 70代以上	10	3.3%
未回答	1	0.3%
合計	306	



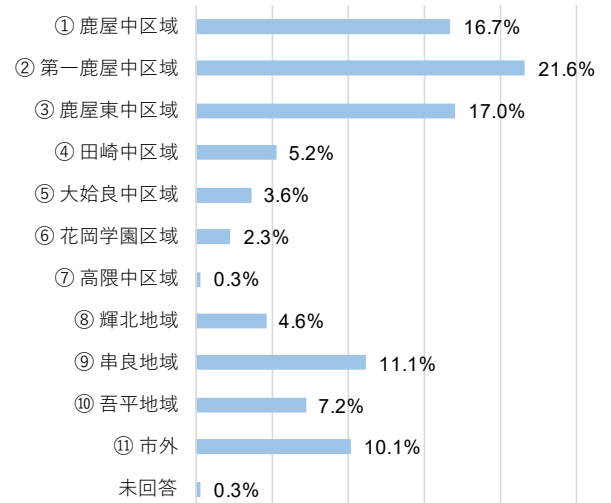
問2 あなたの性別をお答えください。

回答	件数	割合
① 男性	151	49.3%
② 女性	154	50.3%
③ その他	0	0.0%
未回答	1	0.3%
合計	306	



問3 お住まいの地域をお答えください。

回答	件数	割合
① 鹿屋中区域	51	16.7%
② 第一鹿屋中区域	66	21.6%
③ 鹿屋東中区域	52	17.0%
④ 田崎中区域	16	5.2%
⑤ 大始良中区域	11	3.6%
⑥ 花岡学園区域	7	2.3%
⑦ 高隈中区域	1	0.3%
⑧ 輝北地域	14	4.6%
⑨ 串良地域	34	11.1%
⑩ 吾平地域	22	7.2%
⑪ 市外	31	10.1%
未回答	1	0.3%
合計	306	



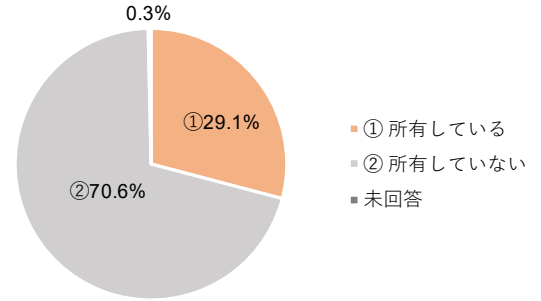


1 市民アンケート結果（利用状況等）

2 自転車の所有・利用について【対象：回答者全員】

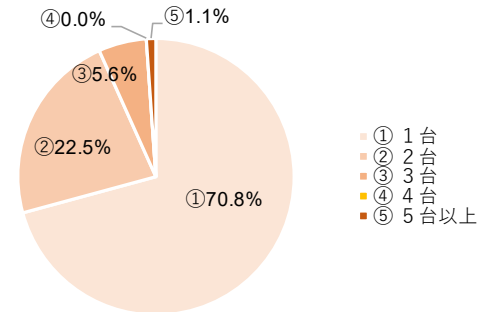
問4 ご自身の自転車を所有していますか。

回答	件数	割合
① 所有している	89	29.1%
② 所有していない	216	70.6%
未回答	1	0.3%
合計	306	



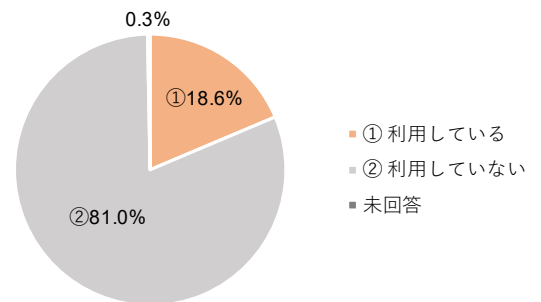
問5 自転車を何台所有していますか。

回答	件数	割合
① 1台	63	70.8%
② 2台	20	22.5%
③ 3台	5	5.6%
④ 4台	0	0.0%
⑤ 5台以上	1	1.1%
合計	89	



問6 ご自身で自転車を利用していますか。

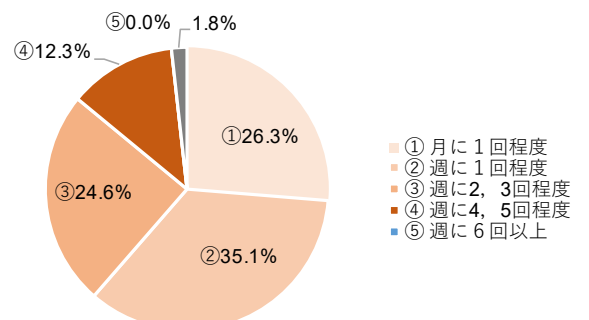
回答	件数	割合
① 利用している	57	18.6%
② 利用していない	248	81.0%
未回答	1	0.3%
合計	306	



3 自転車の利用状況について【対象者：問6で「利用している」と回答した方】

問7 利用する頻度はどのくらいですか。

回答	件数	割合
① 月に1回程度	15	26.3%
② 週に1回程度	20	35.1%
③ 週に2, 3回程度	14	24.6%
④ 週に4, 5回程度	7	12.3%
⑤ 週に6回以上	0	0.0%
未回答	1	1.8%
合計	57	





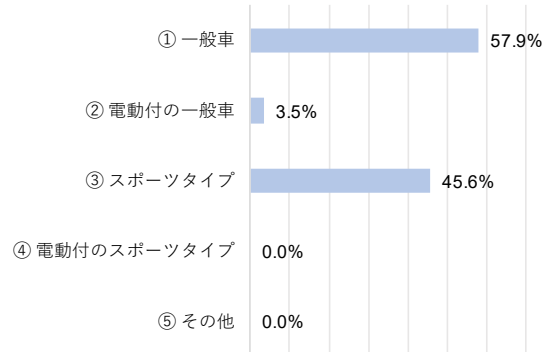
1 市民アンケート結果（利用状況等）

問8 自転車の種類について教えてください。（複数回答可）

回答	件数	割合
① 一般車	33	57.9%
② 電動付の一般車	2	3.5%
③ スポーツタイプ	26	45.6%
④ 電動付のスポーツタイプ	0	0.0%
⑤ その他	0	0.0%
合計	61	

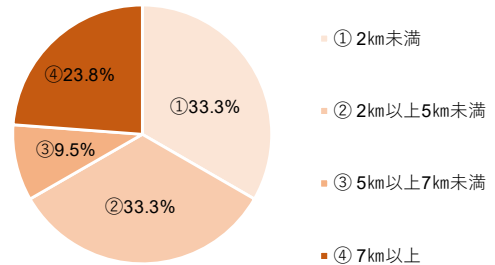
※一般車：ママチャリ、シティサイクル、折りたたみ式など

※スポーツタイプ：クロス、ロード、マウンテンなど



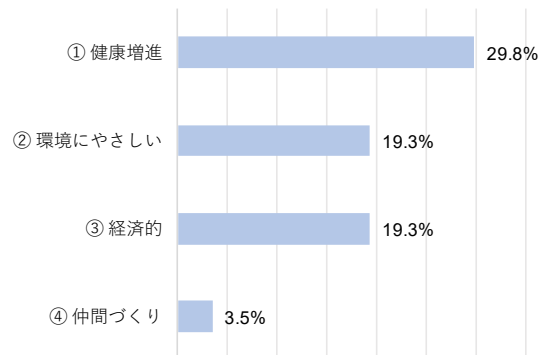
問9 自転車を利用する距離はどのくらいですか。（一般アンケートのみ）

回答	件数	割合
① 2km未満	7	33.3%
② 2km以上5km未満	7	33.3%
③ 5km以上7km未満	2	9.5%
④ 7km以上	5	23.8%
合計	21	



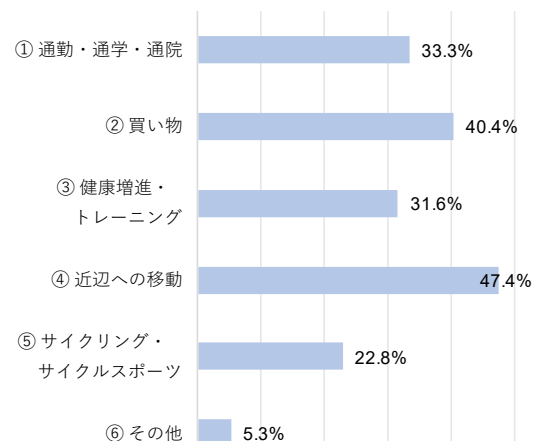
問10 自転車の利用で良いと思うところを教えてください。（一般アンケートのみ）（複数回答可）

回答	件数	割合
① 健康増進	17	29.8%
② 環境にやさしい	11	19.3%
③ 経済的	11	19.3%
④ 仲間づくり	2	3.5%
合計	41	



問11 自転車を利用する目的を教えてください。（複数回答可）

回答	件数	割合
① 通勤・通学・通院	19	33.3%
② 買い物	23	40.4%
③ 健康増進・トレーニング	18	31.6%
④ 近辺への移動	27	47.4%
⑤ サイクリング・サイクルスポーツ	13	22.8%
⑥ その他	3	5.3%
合計	103	



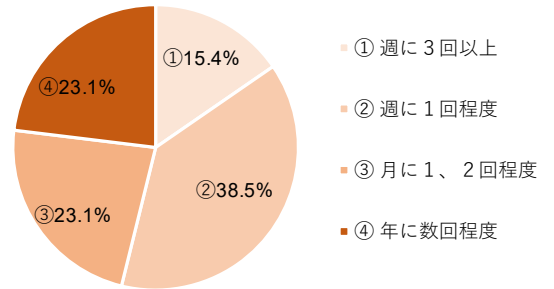
その他の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・車検時など車が使えないときの移動手段 ・民生委員の活動で利用



1 市民アンケート結果（利用状況等）

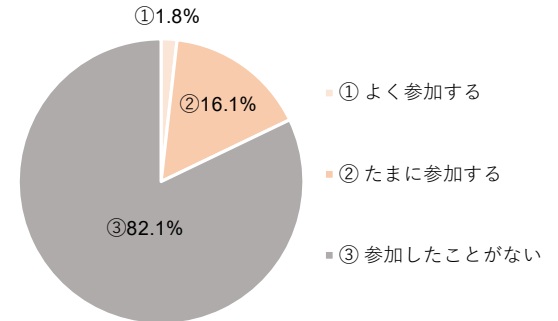
問12 サイクリング・サイクルスポーツを行う頻度はどのくらいですか。（問11の⑤を選択した方のみ）

回答	件数	割合
① 週に3回以上	2	15.4%
② 週に1回程度	5	38.5%
③ 月に1、2回程度	3	23.1%
④ 年に数回程度	3	23.1%
合計	13	



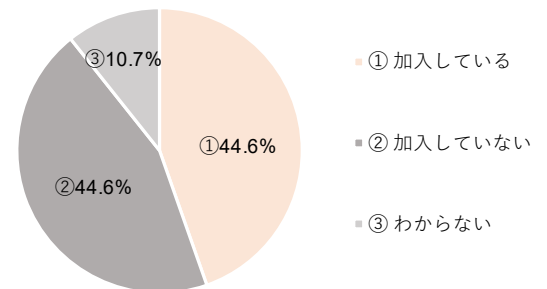
問13 自転車に関するイベントに参加したことがありますか。

回答	件数	割合
① よく参加する	1	1.8%
② たまに参加する	9	16.1%
③ 参加したことがない	46	82.1%
合計	56	



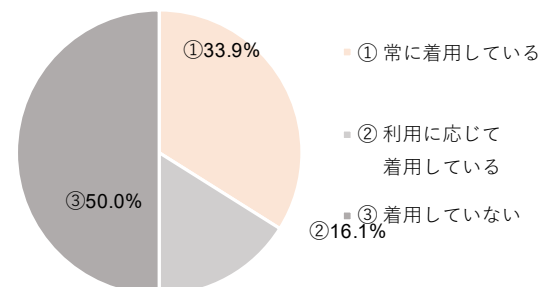
問14 自転車保険に加入していますか。

回答	件数	割合
① 加入している	25	44.6%
② 加入していない	25	44.6%
③ わからない	6	10.7%
合計	56	



問15 自転車を利用する際にヘルメットを着用していますか。

回答	件数	割合
① 常に着用している	19	33.9%
② 利用に応じて着用している	9	16.1%
③ 着用していない	28	50.0%
合計	56	

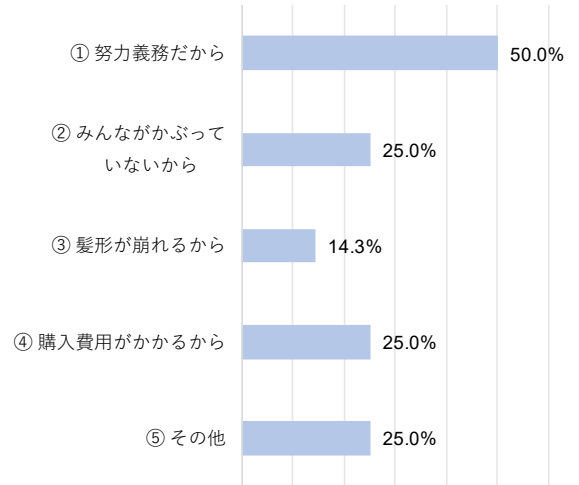




1 市民アンケート結果（利用状況等）

問16 着用していない理由を教えてください。（問13の③を選択した方のみ）（複数回答可）

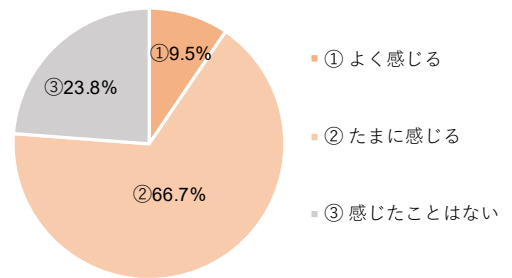
回答	件数	割合
① 努力義務だから	14	50.0%
② みんながかぶっていないから	7	25.0%
③ 髪形が崩れるから	4	14.3%
④ 購入費用がかかるから	7	25.0%
⑤ その他	7	25.0%
合計	39	



その他の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・汗で蒸れる。頭皮が痒くなる。暑いから。 ・馴染まないから。 ・もう高齢だから。 ・100mくらいしか乗らないから。 ・持ってないから。

問17 自転車に乗っているときに人や自動車、バイク等により危険を感じたことがありますか（一般アンケートのみ）

回答	件数	割合
① よく危険を感じる	2	9.5%
② たまに危険を感じる	14	66.7%
③ 危険を感じたことはない	5	23.8%
合計	21	

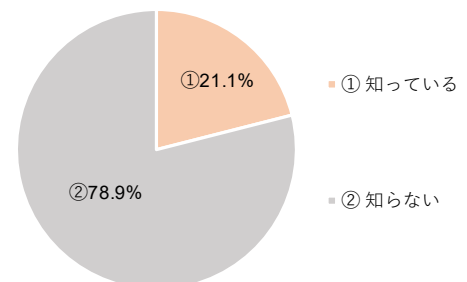


4 サイクリストサポート施設・サイクリングモデルルートについて

(1) 認知度調査【対象者：回答者全員】

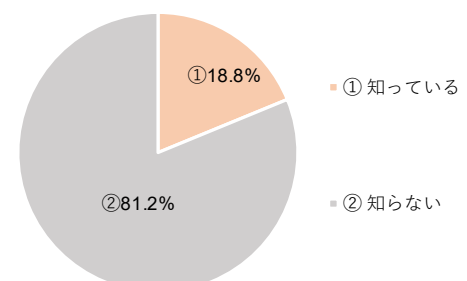
問18 鹿屋市内のサイクリストサポート施設を御存知ですか。（一般アンケートのみ）

回答	件数	割合
① 知っている	28	21.1%
② 知らない	105	78.9%
合計	133	



問19 鹿屋市内のサイクリングモデルルートやモデルコースを御存知ですか。（一般アンケートのみ）

回答	件数	割合
① 知っている	25	18.8%
② 知らない	108	81.2%
合計	133	



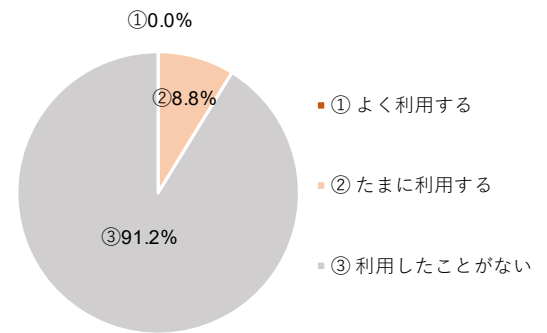


1 市民アンケート結果（利用状況等）

（2）利用状況調査【対象者：問6で「自転車を利用している」と回答した方】

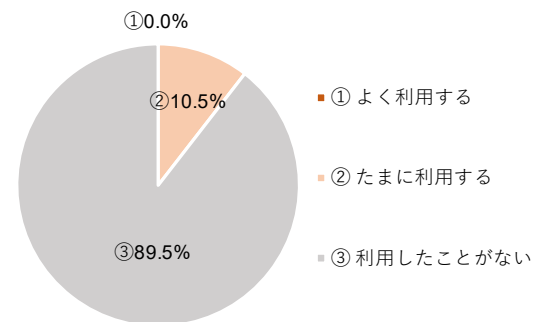
問20 鹿屋市内のサイクリストサポート施設を利用したことがありますか。

回答	件数	割合
① よく利用する	0	0.0%
② たまに利用する	5	8.8%
③ 利用したことがない	52	91.2%
合計	57	



問21 鹿屋市内のサイクリングモデルルートやモデルコースを利用したことがありますか。

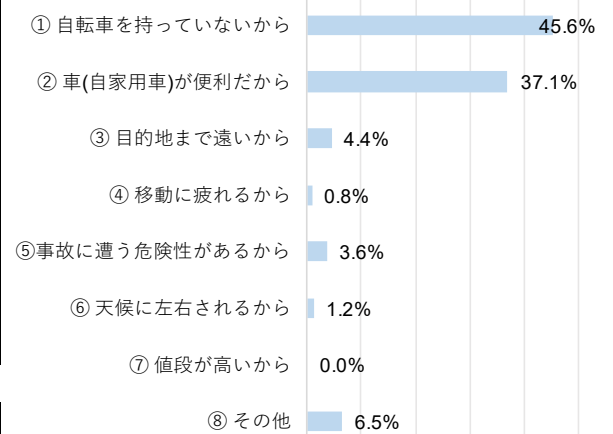
回答	件数	割合
① よく利用する	0	0.0%
② たまに利用する	6	10.5%
③ 利用したことがない	51	89.5%
合計	57	



5 自転車の利用状況について【対象者：問6で「利用していない」と回答した方】

問22 利用していない理由を教えてください。

回答	件数	割合
① 自転車を持っていないから	113	45.6%
② 車(自家用車)が便利だから	92	37.1%
③ 目的地まで遠いから	11	4.4%
④ 移動に疲れるから	2	0.8%
⑤ 事故に遭う危険性があるから	9	3.6%
⑥ 天候に左右されるから	3	1.2%
⑦ 値段が高いから	0	0.0%
⑧ その他	16	6.5%
合計	246	



その他の意見

- ・利用目的、機会が無い
- ・バイクの方が便利だから
- ・ヘルメット着用義務化や保険加入義務化等に伴う支出があるため（自動車に係る費用だけにしたかった）
- ・ヘルメット着用義務化になったため
- ・故障しているから
- ・障がい者だから、関節症等があるから
- ・商業施設等が徒歩圏内にあるから
- ・自転車に乗ると目立つから
- ・自宅周辺が砂利道の坂であり、危険を感じるから
- ・必要性を感じない
- ・修理費用を捻出できない

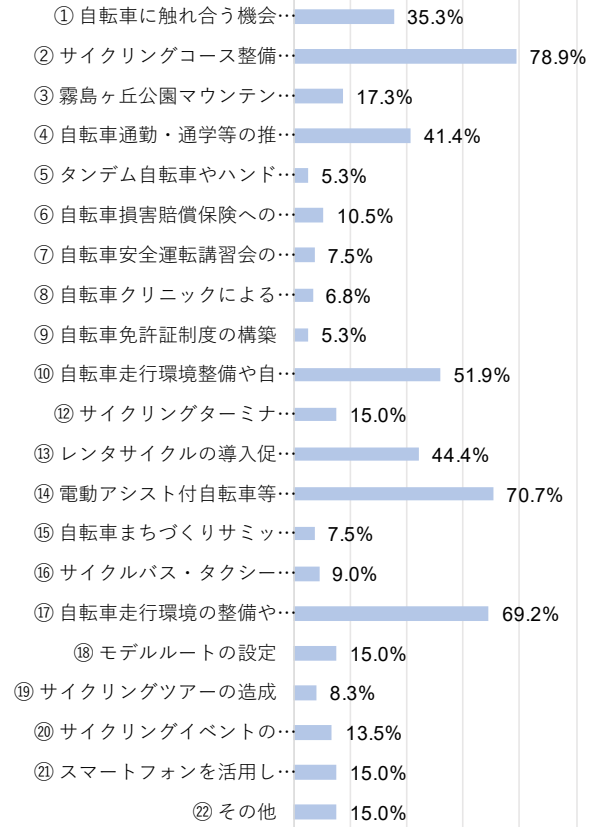


1 市民アンケート結果（利用状況等）

6 自転車利用の今後について【対象者：全員】

問23 どのような環境を整えば自転車を利用したいと思いますか。（複数回答可）

回答	件数	割合
① 自転車に触れ合う機会（イベント）の提供	47	35.3%
② サイクリングコース整備の推進	105	78.9%
③ 霧島ヶ丘公園マウンテンバイクパークの利用促進	23	17.3%
④ 自転車通勤・通学等の推進、マイカーひとやすみdayの推奨	55	41.4%
⑤ タンDEM自転車やハンドサイクル等を活用した障がい者スポーツの推進	7	5.3%
⑥ 自転車損害賠償保険への加入及びヘルメット着用促進	14	10.5%
⑦ 自転車安全運転講習会の実施	10	7.5%
⑧ 自転車クリニックによる定期診断制度の構築	9	6.8%
⑨ 自転車免許証制度の構築	7	5.3%
⑩ 自転車走行環境整備や自転車通行帯ライン整備の推進	69	51.9%
⑫ サイクリングターミナル、サイクリストサポート施設等の整備	20	15.0%
⑬ レンタサイクルの導入促進、サイクルスタンドの整備	59	44.4%
⑭ 電動アシスト付自転車等購入補助制度の構築	94	70.7%
⑮ 自転車まちづくりサミット（広域）の開催	10	7.5%
⑯ サイクルバス・タクシーの運行に向けた取組の検討	12	9.0%
⑰ 自転車走行環境の整備や自転車通行帯のライン整備	92	69.2%
⑱ モデルルートの設定	20	15.0%
⑲ サイクリングツアーの造成	11	8.3%
⑳ サイクリングイベントの内容充実	18	13.5%
㉑ スマートフォンを活用したサイクルツーリズムの推進	20	15.0%
㉒ その他	20	15.0%
合計	722	



その他の意見

- ・公共交通の充実による自家用車を持たなくても不便を感じにくい環境の整備
- ・自転車が通れるような歩道の整備
- ・使用されなくなった自転車の無償提供制度
- ・自転車購入費負担をしていただければ、検討する。
- ・自転車に税金を使わないで欲しい。
- ・職業上、自転車を使わない
- ・高齢者は乗ることが難しい
- ・ダイエットなどの身体を動かすコミュニティーがあれば良い
- ・健康づくりやダイエットに繋がるような自転車の活用
- ・購入目的がない
- ・利用したいと思わない
- ・自転車で行ける範囲にお店、職場が無い



2 自転車関係団体等ヒアリング結果

○実施日：令和5年5月、11月

自転車を活用した健康づくりを推進するために必要なこと	
CIEL BLEU KANOYA	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や職場単位での参加を促すような教室やイベント等の開催を目指しては？ ・ジョギング大会やウォーキング大会等との併催を実施し、まずは「自転車に乗る」人を増やしていく事が大事ではないかと考える。
鹿屋体育大学自転車競技部	サイクリングコースのマップの 広報活動の充実
鹿児島県自転車競技連盟	<ul style="list-style-type: none"> ・当連盟は、競技力向上及び普及に取り組みつつ、自転車という素晴らしいアイテムを活用し、運動習慣をつけ健康な方々が増えることで社会貢献したいと考えている。 ・鹿屋にしかないトップの大学チームやプロチームを活用するなど、連携できる部分は多いと考える。体験する場を増やすことが効果的だと考える。
鹿屋市観光協会	アシスト付自転車を使った健康づくりも加えてもらいたい。
CCCチャリン・コ・クリエイション株式会社	<ol style="list-style-type: none"> ①市職員の体験サイクリング (週1～2回程度通勤手段として自転車を活用) ②市民の体験サイクリングの開催 (イベントでの利用→日常的に利用する流れ) ③プロや大学生に協力を得た交流型イベントの開催 (鹿屋市ならでは) ④器具類を使った室内でのペダリング運動(高齢者向け)
株式会社きたやま	・自然を活かしたサイクリングコースの整備(手軽に走れるコースからプロ級のコース等バリエーションを増やす)
フログサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車活用推進法では、日常の交通手段として自転車の利用者を大幅に増やさないといけない。 ・自転車の利用が健康づくりに効果的であり、かつ、社会貢献できることを認識してもらうことが大切 ・自転車で買い物に行くことが社会貢献(徳)に繋がり自分も健康になる(得)と感じられるような施策が大切
山元モーターサイクル	自転車に乗ることによるメリットの周知
FunRide 鹿屋店	自転車通勤デーなどの推進



2 自転車関係団体等ヒアリング結果

自転車事故のないよう安心・安全な社会の実現のために必要なこと	
CIEL BLEU KANOYA	ドライバー、自転車ライダー共に「 自転車は軽車両であり、車道を守る物 」という 認識 を高めて行くことが大事であると考え。また、中・高校生、特に高校生の「 ヘルメット着用 」を 啓発 すべきと考える。
鹿屋体育大学自転車競技部	シエルブルー鹿屋が行っている 自転車教室のような教育の機会を充実 させること。令和5年4月1日より ヘルメットの着用義務化 が行われて、着用する人数は増えていると考えられるが、頭を守るための着用ができているか不明瞭である。シエルブルー鹿屋の選手たちから 正しい着用方法を学ぶ機会 は 重要 であると考えている。
鹿児島県自転車競技連盟	・プロチームが協力している市内小学校での 安全教室は一定の効果がある と考えます。 ・統計から実際には自転車通学の多い中・高校生に事故が多発していることが判明している。この層への教育が重要かと考えます。 ・年代を問わず道路交通法改正により、 ヘルメットの努力義務 が施行されたので、重点的に取り組まれてはどうか。
鹿屋市観光協会	まずは自転車通学生のヘルメット着用率を高めてもらいたい。
CCCチャリン・コ・クリエイション株式会社	①自転車通学する全高校生へハイセンスな スポーツ用ヘルメットの配布 ② 中・高校生に対する安全教室の開催 (実際の乗りこなしに関する技術指導等) ③ 高齢者や外国人に対する安全教室の開催 (ルールとマナーの教育) ④ドライバーが自転車への「 注意 」「 配慮 」等を認知できる看板等を設置
株式会社きたやま	・子供、高齢者への自転車 交通安全教室の継続実施
フロッグサイクル	・利用者が多くなると、事故が多くなる。 ・子供や学生は交通安全教室の活動で啓蒙活動されているが、そこに当てはまらない人々への啓蒙活動が必要。 ・ 団体、企業での啓蒙活動 や 鹿屋市報での記事取り上げ をより増やしていくことが大切だと感じます。
山元モーターサイクル	運行開始時の 点検の実施 の徹底 (具体的な点検内容の周知)
FunRide 鹿屋店	ヘルメット着用 の推進 信号や走行レーンなど自転車走行時の 交通法規の周知 自転車の 定期的な点検の周知
株式会社ニシムタ	今、都会では、高齢者の事故が多く発生しています。 国道は道が広いですが、県道・市道などは狭いため、自転車を避けて追い越す時の事故が心配です。



2 自転車関係団体等ヒアリング結果

自転車を快適に利用できる環境の整備のために必要なこと	
CIEL BLEU KANOYA	特に鹿屋・大隅は車社会であり、これまでの道路整備は、渋滞緩和や幅員の拡充等が主であったと考える。全線では難しいと思うが、モデルルートを定め、 自転車専用道、もしくは「車歩道（3m以上）」の拡充 が望ましい。
鹿屋体育大学自転車競技部	サイクルスタンドや工具等の設置が行われているので良いと考えている。健康づくりの推進でも記述したように、 広報活動の充実 を図ることで、これらの施設を活用する数が増えると考えている。
鹿児島県自転車競技連盟	<ul style="list-style-type: none"> ・サポート施設の取り組みは素晴らしい。 ・1年に1回は、市職員と地元サイクリストでサポート施設巡回など企画されてはどうか。（サポート施設の周知・活用促進） ・サイクリストから「鹿屋の矢羽根はどこに向かうのか不明」と頻繁に聞く。鹿屋（大隅半島）の道路は走りやすいので、矢羽根の設置は十分検討した方が良い。併せて、MAP看板の設置・周知が必要。
鹿屋市観光協会	定額で保守点検ができればよい。 サイクルスタンドの普及。
CCCチャリン・コ・クリエイション株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ①協力店を探し「サポート施設」の増加を図る。 ②市民への「サポート施設」周知のための定期的な施設巡回サイクリングの実施 ③矢羽根等の誘導サインの徹底検討（コンセプトの明確） ④整備した環境に加え、市民が気軽に活用できることを丁寧に説明（情報発信）
株式会社きたやま	・ 主要道路の拡幅
フロッグサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは、愛好者向けの環境整備のイメージが強かった ・一般の日常的な利用を増加させることが必要で、快適で便利であれば利用者が増えるはず。（「快適・便利＝得する」を深掘りして計画を策定することが必要） （例） ・お店の一番利便性の良いところに駐輪場がある ・自転車で来るとポイントがたまる ↑鹿屋市は広域で坂道も多いので難しいと思うが、人口の密集している地域（寿、西原等）限定でも効果があるのでは
山元モーターサイクル	アクセスルート上の 交通安全の確保 （例：見通しの悪い交差点の情報提供）
FunRide 鹿屋店	走行レーンの 鉄蓋やマンホールに滑り止めの加工 マンホールや歩道との 段差等の解消 （バリアフリーにも繋がる）
株式会社ニシムタ	国道・県道は車が多いので、国道・県道に沿った市道とか畑沿いの道路を選んではどうかと思います。また違う景色が見られるかもしれません。 畑仕事の人に声をかけてみたり、人とのコミュニケーションに良いかと思います。
鹿児島県道路維持課	鹿児島県では、令和4年度から県管理道路において矢羽根等の路面標示による、自転車通行空間整備を進めており、今年度から自転車活用推進計画に位置づけられたサイクルツーリズムモデルルート（24ルート）において、県内全域で進めることとしている。



2 自転車関係団体等ヒアリング結果

サイクルツーリズムの推進による観光振興と地域活性化のために必要なこと	
CIEL BLEU KANOYA	<p>地形的に高低差が多く、「気軽にサイクリング」という地域では無い。よって、電動アシスト付き自転車の普及、レンタルも視野に入れるべきでは。</p> <p>または、ビギナーではなく、クライマー系のサイクリスト対象に大きく偏っても良いかもしれない。</p> <p>「ツール・ド・おおすみ」のような大規模なサイクリングイベントも大事ではあるが、テーマを絞った小・中規模のサイクリングイベントを増やすことも必要かもしれない。</p>
鹿屋体育大学自転車競技部	<p>昨年は、鹿屋体育大学の学生がモニターツアーのお手伝いをさせて頂いた。学生たちはツアーの専門家ではないが、他の地域から来られた方に対して、鹿屋の魅力を伝えるお手伝いを行うことは可能だと考えている。</p>
鹿児島県自転車競技連盟	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年開催しているツール・ド・おおすみやプロツアーや国体など多数の大会を開催いただき、感謝。 ・上記大会で、自転車環境の良さが全国に知れ渡ること、宿泊施設も多く、食が充実していること、鹿屋体育大学があることを強みに、スポーツ合宿の誘致に更なる力を注がれてはどうか。
おおすみ観光未来会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットの明確化（上級者or初級者、インバウンド等を含む） ・レンタサイクルのニーズ調査、実証、導入（予約管理システムを含む） ・サイクルガイドの養成、認定（料金等のタリフ化含む） ・サイクル事業者の育成（上記ガイドの一括管理を行う事業者）
鹿屋市観光協会	<p>募集型企画旅行の実施</p>
CCCチャリン・コ・クリエイション株式会社	<ol style="list-style-type: none"> ①ツール・ド・おおすみは宿泊込み参加型イベントとして集客力があり市として全面協力 ②大型レースイベントのプロツアーや国体などは参加に加え、観戦者の動員にも貢献 ③県ツーリズム評議会地域部会で設定したルートの情報提供及びツアー企画 ④鹿屋地域を発着点とするエリアルートの開発（食・体験・見学等の掘り起こし） ⑤鹿屋体育大学の知名度を活かしたスポーツ合宿の誘致（練習場所・食・宿泊等の提供） ⑥大型客船からの高速船利用（鹿屋港）及び仁川国際空港経由のインバウンド誘客の仕組みづくり ⑦レンタサイクルの整備（特に電動自転車）と貸出ポイントの選定 ⑧コースに合わせた案内人・世話担当の育成（プロ、学生、地域のサイクリスト）
株式会社きたやま	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町村との連携 ・自然を活かしたサイクリングコースの整備(あまり起伏が激しく無く手軽にできる)
フロッグサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車愛好者と一般のツーリストの体験を分けて施策を計画することが大切 ・愛好者には、マニアックでオンリーワンのアクティビティを提供 ・一般のツーリストには、ターゲットを細分化して、より求めるものにマッチしたアクティビティを提供（愛好者向け） ・鹿屋体育大学のトレーニング、コーチング体験（一般のツーリスト向け） ・国籍、年齢、性別、スキルレベルに分けて、魅力あるアクティビティパターンの模索
山元モーターサイクル	<p>自転車で行きたいと思える観光スポットの創出（具体的に）</p> <p>SNSの活用</p>
FunRide 鹿屋店	<p>景勝地などに自転車を設置して一緒に写真を撮れるようなスタンドを設置（インスタ映え、ハッシュタグ等もセットで）</p> <p>分かりやすいスポットやおすすめのコースなど（カフェや歴史的なもの）古墳等</p>



3 レンタサイクル実証アンケート結果

(1) 実施目的

中古自転車を活用して、市内のホテルに自転車を配置し、レンタサイクルの導入促進に向けて実証し、ニーズの把握や今後の施策等を検討するもの

(2) 実証期間

令和5年8月1日～10月31日（3か月）

(3) 実施内容

① 中古自転車の収集

市職員が所有している不用となった自転車を収集（収集自転車：18台）

② 中古自転車の整備など

- ・サビ落とし、タイヤ交換、ブレーキワイヤー交換など
- ・「KANOYA RENTAL CYCLE」の表示設置

③ 自転車の防犯登録・自転車保険の加入

- ・新規で防犯登録の実施
（既に登録されていた場合は、抹消も実施）
- ・所有者賠償責任保険に加入
（所有者の過失(整備不良等)で事故が起きた場合の保険)
（限度額：1名 100,000千円、1事故 500,000千円）



④ 市内ホテルへのレンタサイクル設置

ホテル名	自転車台数
ホテルA	シティ×1、クロス×1 【2台】
ホテルB	シティ×2、クロス×1 【3台】
ホテルC	シティ×2、クロス×1 【3台】
ホテルD	シティ×2 【2台】
ホテルE	シティ×1、ミニベロ×1 【2台】
ホテルF	シティ×2、ミニベロ×1 【3台】
ホテルG	シティ×1、ミニベロ×1 【2台】



3 レンタサイクル実証アンケート結果

(1) 利用回数

① ホテル別利用回数

ホテル名	8月	9月	10月	合計
ホテルA	2	21	28	51
ホテルB	0	11	13	24
ホテルC	0	2	17	19
ホテルD	2	21	16	39
ホテルE	0	2	12	14
ホテルF	4	8	—	12
ホテルG	4	27	6	37
合計	12	92	92	196

※ホテルFは、2か月で実証終了

② 車種別利用回数

車種	利用回数
シティ	125
ミニベロ	25
クロス	30
不明	16
合計	196



シティバイク



ミニベロ



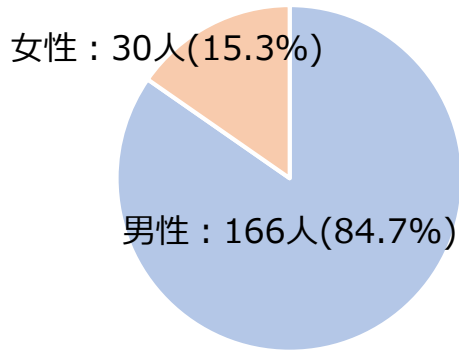
クロスバイク



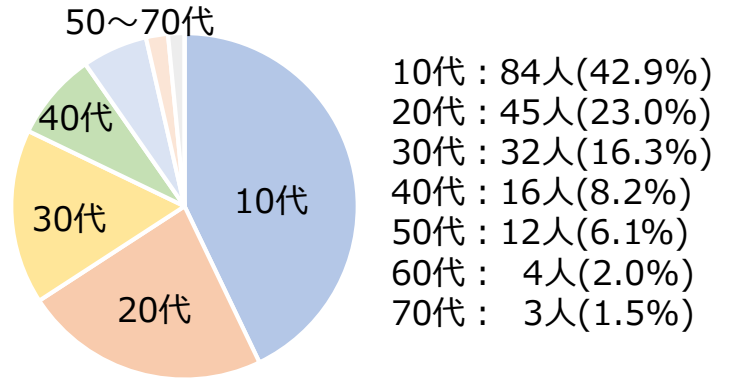
3 レンタサイクル実証アンケート結果

(2) 利用者の情報

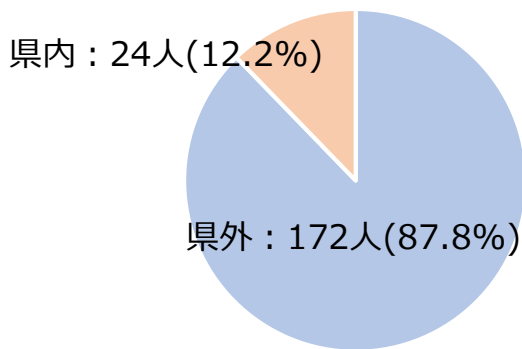
① 男女比



② 年齢

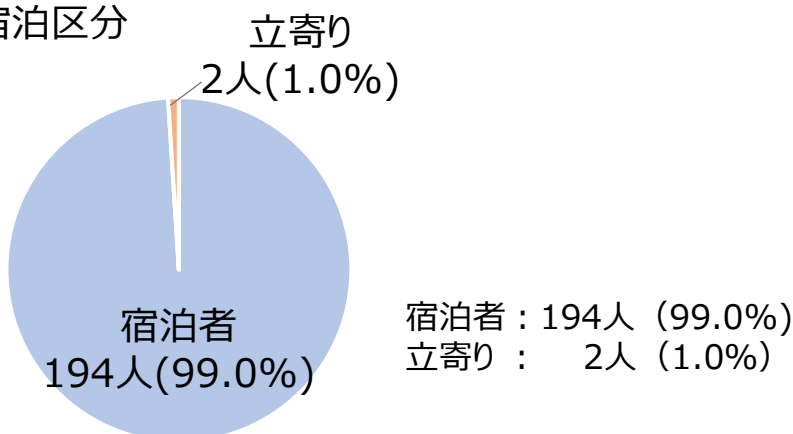


③ 居住地



青森県	18	石川県	6	愛媛県	10
岩手県	1	静岡県	1	福岡県	8
宮城県	4	三重県	4	佐賀県	6
秋田県	17	滋賀県	2	長崎県	2
山形県	7	京都府	2	熊本県	4
福島県	7	大阪府	2	大分県	2
栃木県	3	兵庫県	1	宮崎県	8
埼玉県	13	岡山県	2	鹿児島県	24
千葉県	4	広島県	1		
東京都	18	山口県	6		
神奈川県	8	徳島県	2		
山梨県	1	香川県	2		

④ 宿泊区分





3 レンタサイクル実証アンケート結果

(3) 利用回数（詳細）

① 利用開始時間別利用回数

利用開始時間	ホテルA	ホテルB	ホテルC	ホテルD	ホテルE	ホテルF	ホテルG	合計
0:00～						1		1
7:00～	1				2			3
8:00～	5	1		1	2			9
9:00～	2	2		4	1			10
10:00～	2			1				3
11:00～			1				1	1
12:00～	4	5				1		11
13:00～	2		1				1	3
14:00～	1	3	1	3	2		1	12
15:00～	4	2	3	4	2	1	3	18
16:00～	2		2	1		2	2	8
17:00～	2	3		2		1		13
18:00～	5		1	5	1	2	1	21
19:00～	11		7	8			7	38
20:00～	7	7	1	7	4		1	28
21:00～	3	1	2	3		1	2	14
合計	51	24	19	39	14	9	37	193

② 利用時間別利用回数

利用時間	ホテルA	ホテルB	ホテルC	ホテルD	ホテルE	ホテルF	ホテルG	合計
1時間未満	21	9	4	20	4	2	19	79
2時間未満	13	9	13	13	2	4	10	64
3時間未満	7	5	1	4	7	1	5	30
4時間未満	3			1		1	2	7
5時間未満	3							3
6時間未満	2	1	1				1	5
7時間未満						1		1
9時間未満	2							2
12時間未満					1			1
24時間未満				1				1
合計	51	24	19	39	14	9	37	193

平均：1時間28分



3 レンタサイクル実証アンケート結果

(3) 利用回数 (詳細)

③ 利用日別利用回数 (かごしま国体開催日を抽出)

ローイング競技開催期間：9/17～9/24 ※9/25の利用は無し

利用日	ホテルA	ホテルB	ホテルC	ホテルD	ホテルE	ホテルF	ホテルG	合計
9/17	1			1		2	5	9
9/18	4						7	11
9/19	2			7	1		2	12
9/20	3	1		3	1		3	11
9/21				2			2	4
9/22	4	7	1	4			2	18
9/23	2			3				5
9/24				1			3	4
合計	16	8	1	21	2	2	24	74

バレーボール競技開催期間：10/8～10/11

自転車競技開催期間：10/11～10/15 ※トラック競技含む

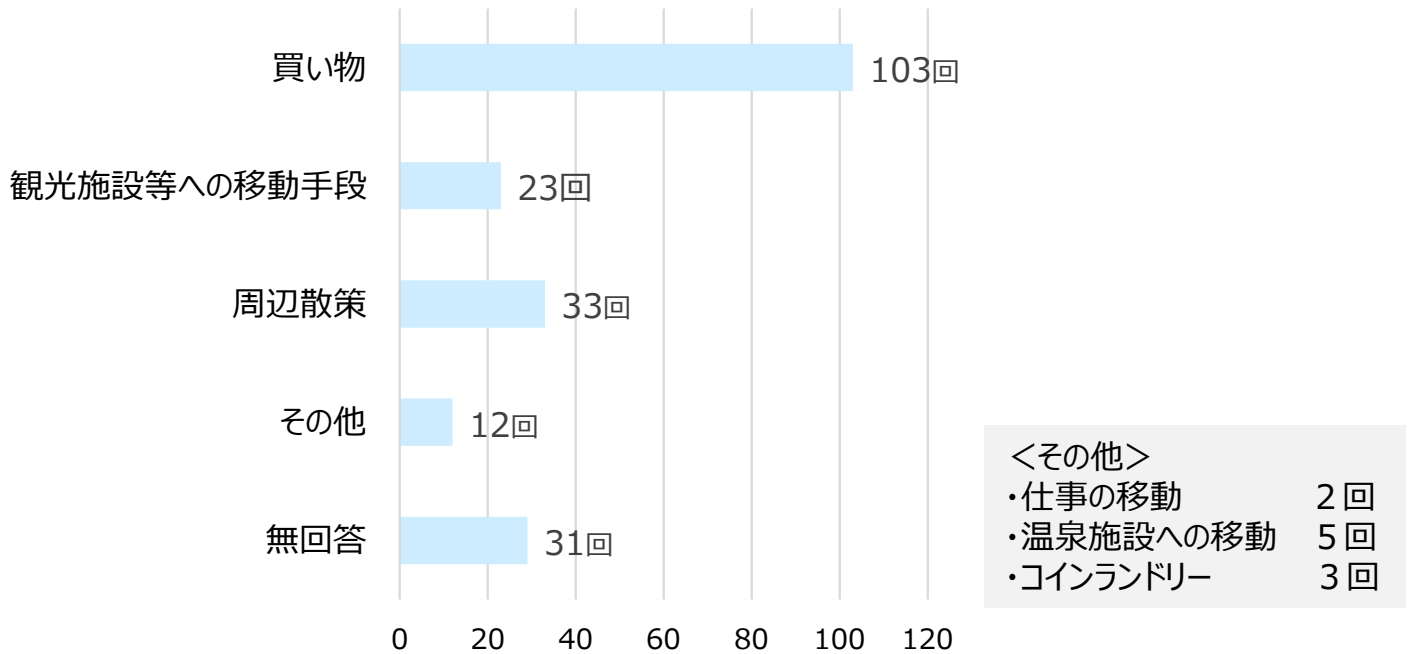
利用日	ホテルA	ホテルB	ホテルC	ホテルD	ホテルE	ホテルF	ホテルG	合計
10/7					2	-	2	4
10/8	1					-		1
10/9	1	1				-		2
10/10	4		4	4	2	-		14
10/11			2	1	1	-		4
10/12	4			1	3	-		8
10/13	1		4	4		-		9
10/14	1		5	4	2	-		12
10/15	2					-		2
10/16	1					-		1
合計	15	1	15	14	10	-	2	57



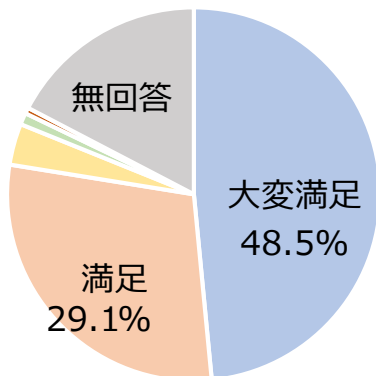
3 レンタサイクル実証アンケート結果

(2) 利用回数

⑥ 利用目的別利用回数

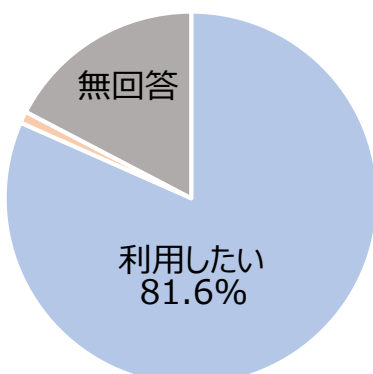


(3) 利用満足度



満足度	回答者数	割合
大変満足	95	48.5%
満足	57	29.1%
どちらともいえない	7	3.6%
不満	2	1.0%
大変不満	1	0.5%
無回答	34	17.3%
合計	196	

(4) 次回の利用について



次回利用	回答者数	割合
利用したい	160	81.6%
利用したくない	2	1.0%
無回答	34	17.3%
合計	196	



4 自転車施策に係る実績

鹿屋市サイクリストサポート施設一覧（29施設）

（R5年度時点）

NO.	施設名	住所
1	有限会社東京屋菓子店	吾平町麓3560-1
2	セブンイレブン鹿屋吾平町店	吾平町麓3613-13
3	おいもdeカフェ	今坂町9982-14
4	かやの郷	今坂町9979-4
5	かぼちゃのたね寿店	寿2丁目6-1
6	百とおや	本町8-10
7	マリアージュショコラドルチェ	西原1丁目23-4
8	ホテル太平温泉	新生町5-25
9	ユクサおおすみ海の学校	天神町3629-1
10	ホームセンターきたやま	寿8丁目1-38
11	Aコープ肝付あいら店	吾平町麓3338-3
12	吾平物産展示館	吾平町上名5250-1
13	株式会社おおすみ観光未来会議	北田町8-8
14	鹿屋市観光物産総合センター	西原3丁目11-1
15	岩元園 ちゃ店	野里町5144-1
16	J A 鹿児島きもつき どん菜市場	笠之原町7517-1
17	高野サイクル	上野町4866-46
18	南風ガーデン	浜田町1349-1
19	ファミリーマート大隅吾平店	吾平町麓180-1
20	フログサイクル	川西町2494-14
21	平和公園串良平和アリーナ	串良町有里4831番地3
22	ハマダ商事有限会社	下高隈町4467-2
23	鹿屋サイクルショップ★GO	川西町4857-5
24	榮樂寿司	共栄町16-7
25	串良さくら温泉	串良町下小原3948番地1
26	整骨院さくら	西原1丁目6-28
27	イタリアン食堂ラ・プッティ・レガーマ	朝日町11-14
28	年貫神社	南町436
29	はまだベース	浜田町560



4 自転車施策に係る実績

レンタサイクル実施団体

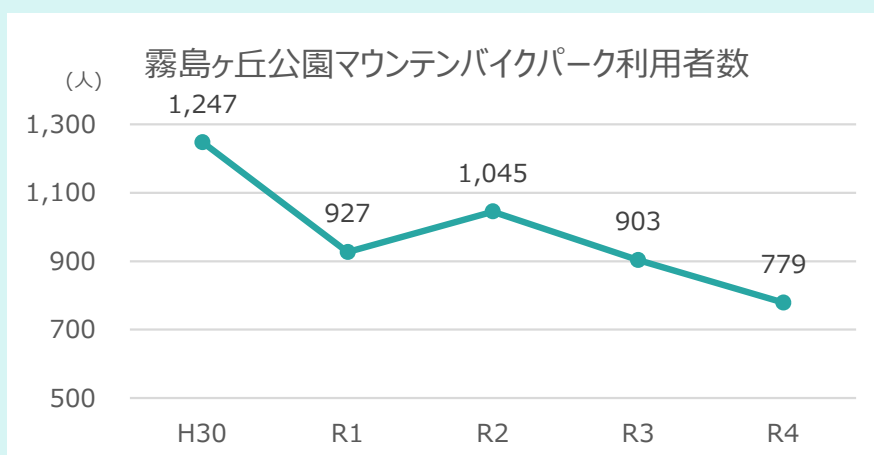
NO.	団体名	住所
1	高隈地区コミュニティ協議会	上高隈町262-1
2	FunRide鹿屋店	天神町3629-1
3	チャリカフェ	浜田町1250
4	柳谷町内会（やねだん）	串良町上小原4964-2

サイクリングイベント実施時期

NO.	イベント名	イベント概要	実施時期
1	JBCFサイクルロードシリーズ	国内トップチームによるレース	2月
2	サイクルロゲイニング	「ロゲイニング」と「サイクリング」を合体させたイベント	2月・11月
3	かのやマウンテンバイクーズFES	霧島ヶ丘公園マウンテンバイクコースの周回数を競うイベント	8月
4	ツール・ド・おおすみサイクリング大会	大隅半島の景色や食材を楽しみつつサイクリングを行うイベント	10月

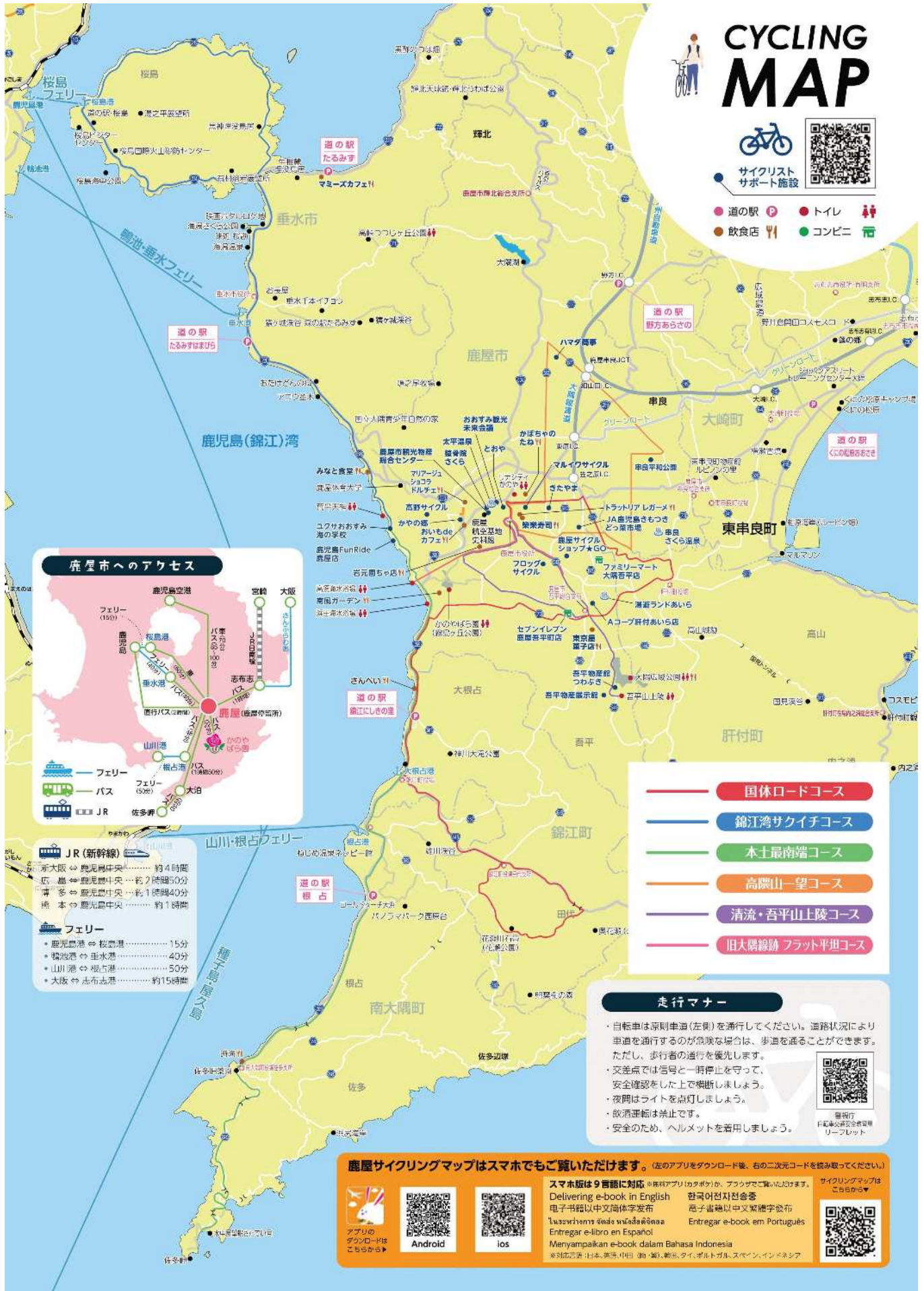
霧島ヶ丘公園マウンテンバイクパークの利用状況

- 霧島ヶ丘公園マウンテンバイクパークの利用者数は、年間約800人の利用があります。





5 モデルルート図





第2次鹿屋市自転車活用推進計画

鹿屋市 市民生活部 市民スポーツ課